

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載  
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分  
 【発行日】平成 29 年 2 月 16 日 (2017.2.16)

【公表番号】特表 2016-509436 (P2016-509436A)  
 【公表日】平成 28 年 3 月 24 日 (2016.3.24)  
 【年通号数】公開・登録公報 2016-018  
 【出願番号】特願 2015-556091 (P2015-556091)  
 【国際特許分類】

H 0 4 N 19/70 (2014.01)

H 0 4 N 19/30 (2014.01)

【 F I 】

H 0 4 N 19/70

H 0 4 N 19/30

【手続補正書】  
 【提出日】平成 29 年 1 月 13 日 (2017.1.13)

【手続補正 1】  
 【補正対象書類名】特許請求の範囲  
 【補正対象項目名】全文  
 【補正方法】変更  
 【補正の内容】  
 【特許請求の範囲】  
 【請求項 1】

ビデオ情報を復号する方法であって、

レイヤ間シンタックス予測をイネイブルにすべきであるか、又はデセイブルにすべきであるかの第 1 の指示を、シーケンスレベルで受信することと、

ベースレイヤに関連するコーデックが非 H E V C ( 高効率ビデオコード化 ) コーデックを備えるかどうかを、前記第 1 の指示に基づいて決定することと、

前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが非 H E V C コーデックを備えると決定したことに応答して、レイヤ間シンタックス予測をデセイブルにすることと、

レイヤ間テクスチャ予測をイネイブルにすべきであるか、又はデセイブルにすべきであるかの第 2 の指示を、前記シーケンスレベルで受信することと、

ここにおいて、前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が互いに無関係である、  
を備える、方法。

【請求項 2】

前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが前記非 H E V C コーデックを備えるかどうかを決定することが、前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが A V C コーデックであるかどうかを決定することを備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 3】

前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が、第 1 のフラグ又はシンタックス要素と第 2 のフラグ又はシンタックス要素とを備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 4】

前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が、ビデオパラメータセット、又はシーケンスパラメータセット中で受信される、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 5】

前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が、異なるフラグ、異なるシンタックス要素、又は単一のシンタックス要素の異なる値である、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 6】

前記第 1 の指示の値を推論させることによって前記第 1 の指示を受信することをさらに

備える、請求項 1 に記載の方法。

【請求項 7】

ビデオ情報を符号化する方法であって、

レイヤ間シンタックス予測をイネイブルにすべきであるか、又はデセイブルにすべきであるかの第 1 の指示を、シーケンスレベルにおいて与えることと、

ベースレイヤに関連するコーデックがコーデックの非 H E V C ( 高効率ビデオコード化 ) を備えるかどうかを決定することと、

前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが非 H E V C コーデックを備えると決定したことに応答して、レイヤ間シンタックス予測をデセイブルにすべきであると指示するための前記第 1 の指示を与えることと、

レイヤ間テクスチャ予測をイネイブルにすべきであるかどうかの第 2 の指示を、前記シーケンスレベルにおいて与えることと、

ここにおいて、前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が互いに無関係である、  
を備える、方法。

【請求項 8】

前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが前記非 H E V Cコーデックを備えるかどうかを決定することが、前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが A V C コーデックであるかどうかを決定することを備える、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 9】

前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が、第 1 のフラグ又はシンタックス要素と第 2 のフラグ又はシンタックス要素とを備える、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 10】

前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が、ビデオパラメータセット、又はシーケンスパラメータセット中で与えられる、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 11】

前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が、異なるフラグ、異なるシンタックス要素、又は単一のシンタックス要素の異なる値である、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 12】

ビットストリーム中でレイヤ間シンタックス予測フラグ又はシンタックス要素を信号伝達するのをスキップすることによって、前記第 1 の指示を与え、前記第 1 の指示の値を推論させることをさらに備える、請求項 7 に記載の方法。

【請求項 13】

実行されたとき、プロセッサに、請求項 1 乃至 12 のいずれか 1 項に記載方法を行わせるコードを備える、コンピュータ可読媒体。

【請求項 14】

ビデオ情報を復号するための手段であって、

レイヤ間シンタックス予測をイネイブルにすべきであるか、又はデセイブルにすべきであるかの第 1 の指示を、シーケンスレベルにおいて受信するための手段と、

ベースレイヤに関連するコーデックが非 H E V C ( 高効率ビデオコード化 ) コーデックを備えるかどうかを、前記第 1 の指示に基づいて決定するための手段と、

前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが非 H E V C コーデックを備えると決定したことに応答して、レイヤ間シンタックス予測をデセイブルにするための手段と、

レイヤ間テクスチャ予測をイネイブルにすべきであるか、又はデセイブルにすべきであるかの第 2 の指示を、前記シーケンスレベルにおいて受信するための手段と、

ここにおいて、前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が互いに無関係である、  
を備える、手段。

【請求項 15】

ビデオ情報を符号化するための手段であって、

レイヤ間シンタックス予測をイネイブルにすべきであるか、又はデセイブルにすべきであるかの第 1 の指示を、シーケンスレベルにおいて与えるための手段と、

ベースレイヤに関連するコーデックがコーデックの非 H E V C ( 高効率ビデオコード化 ) を備えるかどうかを、決定するための手段と、

前記ベースレイヤに関連する前記コーデックが非 H E V C コーデックを備えると決定したことに応答して、レイヤ間シンタックス予測をデセイブルにすべきであると指示するための前記第 1 の指示を与えるための手段と、

レイヤ間テクスチャ予測をイネイブルにすべきであるかどうかの第 2 の指示を、前記シーケンスレベルにおいて与えるための手段と、

ここにおいて、前記第 1 の指示及び前記第 2 の指示が互いに無関係である、を備える、手段。